

## レスポンスブル・ケア (RC) とは

事業者による自主管理活動で製品の全ライフサイクルにわたり「環境・安全・健康」を確保する活動のことです。

具体的には、事業者が自己決定・自己責任の基本に基づき製品の開発から製造、物流、使用を通じ廃棄処分に至る全ての過程において環境保全・安全を確保することを経営方針において誓約し、対策を実施し、改善を図ることを主旨とする活動で世界各国で取組まれています。

日本では(社)日本化学工業協会(日化協)が中心となり、1995年に「日本レスポンスブル・ケア協議会(JRCC)」が設立されました。富士フィルムはJRCCに対しレスポンスブル・ケア実施の宣誓を行い、JRCC設立と同時に会員になりました。美しい自然と貴重な資源確保のためにレスポンスブル・ケア方針を定め、その活動に真摯に取り組んでいます。

## レスポンスブル・ケアとISO14001の関係

### 相互補完関係にあるRCとISO14001

レスポンスブル・ケアが事業者による自主管理活動である一方、国際規格「ISO14001」は環境管理システムに関する規格です。その管理として、法規制などの順守が重視されているといえることは、いうまでもありません。しかし、現在の日本の主要企業では、法規制の順守は当然のこととして受け止められ、対応ができています。従って、ISO14001による管理のシステムの中では、自らのポリシーのもとで設定した目的・目標に向かっての自主的な取組みが重要な位置を占めることになります。それがレスポンスブル・ケアにぴったりと合致します。

このように、レスポンスブル・ケアは「活動」であり、ISO14001は「仕組み」であります。どちらかが他方に優先するとか、一方があれば他方は不要というものではありません。両者を活用することにより互いに補完して、継続的な改善を実現することができます。

従って、富士フィルムの環境問題への取組みの基本的な考え方は、「ISO14001による管理システムの整備・運用を通じてレスポンスブル・ケアを実現する」ことです。

